

# “Heart to Heart”

第1巻 第2号

発行日 平成18年7月18日

## 目次:

教育相談にたずさわって	1
コラム：コミュニケーションをたちあげる	2
療育プログラムのようす	2
ギャラリー紹介	2
コラム：療育に思う	2

## 教育相談にたずさわって

北原記念館3階にある武蔵野東教育センターでは、各種の療育プログラムを実施しています。オープン前から、担当者はプログラムの内容を検討し、受講して下さる方への案内など準備に追われていたように思われます。プログラムは、時間、曜日、時期などを考慮して、より多くの方に参加してもらえるように構成されています。私は、そこで保護者の方への教育相談をさせていただいています。

振り返ってみると、教育相談にかかわってから40年余が過ぎてしまいました。数えてみて、自分でも月日の経つのは早いと感じています。そして、相談に当たって、いつの時代もわが子の成長、発達を願う父母の気持ちが伝わってきます。近ごろ、教育相談をしていて、ふと若いころのことを思い出し、若いときの相談は結果を急ぎ過ぎたのではと反省させられています。最初にかかわった子どもたちは、4歳を過ぎそれぞれの人生を歩んでいます。幼いころの日常生活習慣、コミュニケーション(人とのかかわりを含めて)

の獲得などは、大人になっても大切な課題です。

最近、大学で自閉症のビデオ視聴をしたところ、学生の感想に、「この夫妻だから、子どもはここを選んで生まれたのだ」というのがありました。自閉症児に一生懸命かかわっている両親の姿に、学生たちは感動していました。これからの時代、みんなが共に暮らすことをめざしていくとすれば、多くの方々の理解を得て、地域の中で安心して暮らしていけるように体制整備をさらにすすめていく必要があると思います。

寺山 千代子(目白大学客員教授)



寺山先生には、武蔵野東学園の理事及びアドバイザーボードとして、また、当教育センターのスペシャルアドバイザーとして幅広くご助言をいただいています。



## コラム 障害者擁護にたずさわって(1)

## コミュニケーションをたちあげる

自閉症とされる人たちの言葉とコミュニケーション / 私もこの人たちのことを、言葉によるコミュニケーションが苦手などと表現していますが、どうもその表現では、この人たちが人とのコミュニケーションを望んでいないと誤解されかねないな、と思ってきました。最近、ある辞典でコミュニケーションという言葉

と、その書き出しのところに語源として「共通のものを分かち合うこと」とありました。情報伝達だけじゃないんですね。もっと手前のところに、人が人と向き合って呼びかけ、そして聞きとって何かを分かち持つとする心的状況があるんだと気づかされました。自分と相手の「声」、それは言葉でなくても表情や態度

副島 洋明(副島弁護士事務所)

や無意識のボディランゲージを含めて、呼びかけと聞きとり(受けとめ)が同時になりたつ関係なんですね。コミュニケーションをたちあげるためには、分かち合う「言葉」、わかりあえる、通じ合う関係をつくらなくちゃならないな、とそんな思いを強くしています。



このコラムは4回シリーズでお届けします。

## 療育プログラムのようす

4月から始まった療育プログラムもすっかり軌道に乗り、楽しそうにセンターに通ってしてくれる子どもたちの輝く笑顔が、スタッフにはなによりの励みとなっています。当初は新しい環境に戸惑っていた子どもたちも、今では「次はおやつだね」「次は国語、がんばるよ」などしっかりとスケジュールも把握しています。担当スタッフとのコミュニケーションもできて、「せんせい!」と駆け寄っていくほほえましい姿が見られます。当初は鉛筆も十分に持つことができなかった子どもが、ひらがなが書けるようになったとか、足し算ができるようになったなど、嬉しいニュースがちらほら聞こえてきます。体育教室では、ホッピングや自転車の練習を重ね上達してきました。プログラムを終えた子どもの額ににじむ汗がさわやかです。子どもたちが今後どのような発達をみせてくれるのか、責任の重さを感じつつ楽しみにしている今日この頃です。

## ギャラリー紹介

セミナー室の壁に武蔵野東学園の幼稚園から高等専修学校の園児や生徒の絵画作品をかざりました。また、ルームAのななめ前の壁には、療育プログラムを受講している子どもたちの作品を掲示してあります。自閉症スペクトラムをもつ人の中には、すぐれた色彩感覚や写真的正確さを備えた絵を描く人がいます。また、集中力や持続力の必要な仕事で特異な能力を発揮することがよくみられます。その独特な感覚や能力は、絵画や切り絵、陶芸など多くの分野で発揮されています。教育センターでは、子どもたちの個性あふれるアート作品を積極的に紹介していきたいと考えています。自分が表現したものが注目を浴びる、誉められるという経験をできるだけ多くさせてあげたいものです。今後のギャラリーの展開をどうぞご期待ください。



## 療育に思う &lt;コラム Mr. Tのつぶやき&gt;



梅雨の憂鬱な天気が続いている。このところ、数人の保護者から「子どもの調子がいつもとちがう」という声を聞く。普段ならなんでもないことでもぐずって、表情も優れないとのこと。体の不調が気持ちの不安をよび、それが行動に反影しているのだろうか。大人でもうんざりするこの気候、特に体力の未熟な幼児には無理もない。

この時期に体調をくずす原因はいくつか考えられる。暑さによる体力の消耗、水分補給の不足あるいは過多、冷房に

よる体温調整機能のみだれなどはその代表だが、梅雨空や暑さのために屋内で過ごす時間が長くなること、すなわち太陽光を十分に浴びる機会が少なくなることも大きな原因としてあげられよう。なぜならこれは、人が本来持っている「日中は陽の光の下で活動的に過ごし、夜はぐっすり睡眠をとる」という生体リズムの維持に深く関わっているからだ。

日中に十分な陽の光を浴びることは、「睡眠ホルモン」とも呼ばれるメラトニンの生成、分泌を促し快眠を助けるといわれ、快眠には、疲労回復、ストレスの緩和、新陳代謝の促進、免疫力の向上などさまざまな効能があることが分かっている。